

令和3年度 芦屋市上下水道事業経営審議会【下水道事業】質問に対する回答

質問番号	ページ番号	質問事項	回答
No.1	2	下水道中期ビジョンの適用年度は平成23年度から平成32年(令和2年)度で、下水道ビジョンは令和4年度から令和13年度となっております。本来であれば下水道ビジョンは令和3年度から適用されるべきだったと思いますが、そうしなかった理由を教えてください。	水道ビジョン、水道事業経営戦略、下水道ビジョン、下水道事業経営戦略につきましては、これまで別個の計画期間としていたため、更新時期にズレが生じておりました。このたび、各ビジョン、各経営戦略の計画期間を統一することで、各計画間の整合を図るものです。令和3年度の下水道ビジョンにつきましては、旧ビジョンを継続しています。
No.2	2	「第5次芦屋市総合計画」: 下記期間のズレは正しいのでしょうか？ 水道ビジョンは、令和3年～12年(p2) 下水道ビジョンの10年は、令和4年～13年(p2)	第5次芦屋市総合計画と下水道ビジョンの関係ですが、下水道ビジョンは第5次総合計画の下位計画です。第5次芦屋市総合計画の計画期間は令和3年～令和12年ですが、それぞれ異なる計画ですので計画期間のずれはございます。この度の下水道ビジョンの見直しにつきましては令和4年～13年の計画期間です。
No.3	2	国が公表している「新下水道ビジョン」とは？	社会経済情勢の変化等を踏まえ、下水道の使命、長期ビジョン及び長期ビジョンを実現するための中期計画として提示されたものです。(別紙)
No.4	8	水道と比べて、下水道管の耐震化対策が弱い印象です。耐震化率はどれくらいか教えてください。	耐震化率は、約24%です。
No.5	12	芦屋処理区の目標を10年に1度の確率で振る雨を排除することとしておりますが、南芦屋浜処理区については、どのような目標を設定しているのか教えてください。	南芦屋浜処理区については、整備を完了しています。両処理区とも10年に一度の確率で降る雨を排除することを目標に整備していますので、芦屋処理区と限定した記載は削除します。

令和3年度 芦屋市上下水道事業経営審議会【下水道事業】質問に対する回答

質問番号	ページ番号	質問事項	回答
No.6	20, 21	アンケートについて、各設問がわかりにくい(どんな質問であったのか?)です。	アンケートの設問については以下の通りです。 図10「普段、下水道の存在や役割について、どの程度意識されていますか。」 図11「芦屋市の下水道使用料は、兵庫県内で最も低い水準にある事をご存知ですか。」 図13「以下の下水道事業に関する取り組みについて必要だと思われますか。」 図14「下水道に関する情報について、どんな事を知りたいですか。」 図15「下水道に関する災害対策について、どんなことを知りたいですか。」 なお、大変申し訳ありませんが、図14と図15のグラフが入れ替わっておりましたので、説明とあわせて修正いたします。
No.7	21	世代に応じた「啓発の促進」とは、具体的にどのようなことが考えられるのか?	様々な媒体(機会)を用いた啓発活動に取り組むことで、世代に応じた「啓発の促進」を図る必要があると考えています。具体的には、第3章の今後の取り組みの中で、お示しいたします。
No.8	旧ビジョンP18	南芦屋浜下水処理場「憩いの広場」 夏になると沢山の子供達が水遊びをしています。とても楽しそうで良い施設だと思います。子供の安全を考え水質検査はしっかりされていますか?	水遊びをする利用者の安全性も考慮し、年4回、51項目の水質分析を行っております。
No.9	旧ビジョンP18	噴水動力に太陽光発電が利用されていることも今地球温暖化のとりくみとして重要なことだと思います。ぜひ子供達に解かるような絵で再生エネルギーのおもしろさを伝えてほしいと思います。	子供達への環境教育の観点から、サインを時計台に掲示しております。(別紙2)

令和3年度 芦屋市上下水道事業経営審議会【下水道事業】質問に対する回答

質問番号	ページ番号	質問事項	回答
No.10	旧ビジョンP19	下水道の維持管理費が微増していくのはこれまでと違って何の費用が増えていくのでしょうか？ 今までの純益の貯蓄は？今までの純益の貯蓄はどのようなことに使用されてきたのでしょうか？	下水道普及率が100%になるまでは、管渠の新設等の建設改良工事に費用がかかっていましたが、市内全域の整備が完了して以降は、既に布設した管渠の補修や、処理場の機械の修繕など、維持管理にかかる費用が増えていくことになります。 企業会計における当年度純利益については、資本金に組み入れたり、企業債を償還するための減債積立金へ積み立てたりしています。
No.11	経営戦略P2	下水処理場と雨水ポンプ場の運転管理を民間業者に委託していると記載されていますが、遠隔監視、集中監視を実施しているのでしょうか。まだ実施していないのであれば今後IoT技術を活用した遠隔監視、集中監視を計画して更なる業務の改善、効率化を目指すお考えはあるのでしょうか。	運転管理の委託先の民間業者が、芦屋下水処理場の監視室で南芦屋浜下水処理場の遠隔監視を行っております。また、雨水ポンプ場については、芦屋下水処理場の監視室で監視カメラによるWeb監視を行っております。
No.12	経営戦略P2	エネルギー利用について、他自治体では排水の低温廃熱を回収して発電するバイナリー発電を行っている事例があります。パッケージ型の機器もあり比較的容易に設置が可能で、殆どメンテナンスフリーと聞いています。経済的なメリットを検証する必要がありますが、計画検討するお考えはあるのでしょうか。	芦屋市は汚泥の処分を兵庫県に委託しており、汚泥の焼却を行っていないため、バイナリー発電について計画しておりません。
No.13	経営戦略P3	浸水被害の軽減について、南芦屋浜地区では遊水地と管渠を活用した内水氾濫対策工事を実施中ですが、芦屋浜地区や43号線以南の地区はハザードマップ上では大雨時に浸水する地域になっています。関係各所と調整して対策内容を決めていくことになると思いますが、この地区で下水道が果たす役割について検討していることがあればご教示願います。	兵庫県が公表している高潮浸水想定区域図は、ハード対策では守れないような最大規模の高潮に対する危機管理、避難警戒体制の充実を図ることを目的としているため、下水道としての対策は検討していません。
No.14	経営戦略P3	合流式下水道の分流式への変更について岩園地区で計画を進めていくことですが、芦屋市全域での今までの施工実績と今後の実施予定があれば地図上に記載してご教示願います。また、予算について概略で結構ですので、ご教示願います。	分流化の施工実績としましては、住宅改良事業や震災復興事業の際に上宮川町、公光町、大榎町、茶屋之町の各一部で実施しております。今後の予定につきましては、岩園町の一部で検討しておりますが、実施予定には至っておりません。今後の分流化に備えて、宅内分流化を進めています。

令和3年度 芦屋市上下水道事業経営審議会【下水道事業】質問に対する回答

質問番号	ページ番号	質問事項	回答
No.15	経営戦略P4	動力費削減, 電力使用量削減について, ポンプ等の機器更新時にトップランナー製品を採用していると思いますが, 年間どの程度電力量が削減できているでしょうか。また, 今後どの程度削減できると見込まれているでしょうか。芦屋浜下水処理場の更新時には最新鋭システムを導入することで, どの程度の電力使用量の削減が見込めるでしょうか。	機器の更新時にはトップランナー製品を採用していますが, 各機器による電力の削減量の把握は, 各機器への電力量計の設置等による計測が必要になるため, 行っておりません。しかしながら, 省エネ機器への更新のみでなく, 運転操作の工夫等(Ex.大東ポンプ場では, 電動ポンプより先に, 運転コストの安いディーゼルエンジンポンプを稼働させています。)により, 下水処理場及びポンプ場全体の電力量は5年間で15%程, 削減できています。
No.16	経営戦略P7	営業収益の減少 料金収入は, 平成40年度だと人口の減少化傾向が考えられるのに, 上がる要素はあるのでしょうか。	平成28年3月策定の第4次芦屋市総合計画の将来人口推計に基づいて算出しています。今年度策定予定の第5次芦屋市総合計画では将来人口推計は減少傾向となっており, これに基づいて経営戦略の見直しを行っています。
No.17	経営戦略P7	営業外収益が, 現時点では料金収入より高いのに対し平成40年度には半分以下になっています。営業外収益の柱は国からの補助金かと思いますが, 上記理由についてご教示いただきたく存じます。	営業外収入の主な内容は, 他会計補助金(一般会計からの繰入金)と長期前受金戻入になります。これらの収入は料金収入には連動していません。
No.18	経営戦略P7	特別損失が, 平成30年度が特に高いですが, 今後, 本年度のように高くなる恐れは考えられないのか気になりました。特別損失の内容についてもご教示いただきたく存じます。	下水道事業会計は平成30年度に企業会計へ移行しました。そのため, 平成29年度は打ち切り決算となり, 平成29年度の消費税及び地方消費税納付額が平成30年度に特別損失として計上されています。よって, 平成30年度の特別損失が特に高くなっています。

令和3年度 芦屋市上下水道事業経営審議会【下水道事業】質問に対する回答

質問番号	ページ番号	質問事項	回答
No.19		<p>水道ビジョンとの関係で、下水道ビジョンの構成(目次的に)は似たようなものになったほうがわかりやすいと思うが、そこは割り切っているのでしょうか。(水道、下水道に特化した特殊な部分は除く) また、水道ビジョンに記載のあった人口減少の話や職員体制の話は下水道ビジョンにはでてこないのでしょうか。(同じような記載になるとは思いますが)</p>	<p>水道事業に対する認知度と下水道事業に対する認知度を比較した場合、下水道事業に対する認知度が低い傾向があります。そのため、下水道ビジョンについては、より親しみやすく、分かりやすくするために写真やイラストを多めに組み入れた構成としています。 そのため、目次を含めた章立て等につきましても独自の構成としております。 人口減少に伴う課題につきましては、P18の2-4厳しさを増す財政状況で記載しております。職員体制につきましては、地方公営企業法の人事権を含めた全部適用をしている水道事業と人事権を含まない一部適用をしている下水道事業の違いがあるため、下水道ビジョンでは職員体制に関する記載はしていません。</p>
No.20		<p>今回は「現状・課題」の説明がメインで、それについてどういう形で対処する、というのは次回以降になるという認識でよろしいでしょうか。(例えば財政の長期推計や組織体制についての今後の考え方など)</p>	<p>ご指摘のとおりです。今回は、現状と課題についてご説明させていただきました。次回、第2回で施設見学していただき、第3回審議会で今後の取り組みについて説明させていただく予定です。</p>

令和3年度 芦屋市上下水道事業経営審議会【下水道事業】質問に対する回答

質問番号	ページ番号	質問事項	回答
下水道ビジョン(経営戦略)以外の内容のご質問等			
No.21		令和2年度(2020)の上下水道の利用状況について、コロナ禍における在宅勤務増加や店舗閉店の影響により給水量に変化が生じたのか？	令和元年度に比べ令和2年度は専用家事用の使用水量が461,538㎡増加し、それ以外の使用水量は138,844㎡減少しましたが、全体としては322,694㎡増加しました。
No.22		基本方針と関連させてSDGsの実現にどのように貢献するのか？市行政とタイアップして公開していくのか？	芦屋市が策定している第5次総合計画にはSDGsの取組も記載されております。その下位計画である下水道ビジョンにおいても安心・安全・快適な下水道を推進することで市行政とタイアップしてまいります。
No.23		市役所関連の建物や市内の民間保有ビルなどで中水道設備を導入しているところはあるでしょうか。災害時に停電でトイレが使えないときなどに有効な手段と思います。過去に濁水被害で苦労した福岡市や松山市では導入事例が多いと聞いています。最近では上水道レベルまで浄化する機器も市販されていると聞いています。災害に対する備えとしてどのように情報収集し、評価されているでしょうか。	中水については、下水処理場敷地内の散水やディーゼルエンジンの冷却水、市発注の工事用水や散水、環境処理センターの散水、谷崎潤一郎記念館の園庭の池の水、総合公園のトイレの洗浄水、南芦屋浜下水処理場のせせらぎ広場の水に利用しています。災害時には、南芦屋浜下水処理場及び総合公園の災害用マンホールトイレの洗浄水として利用可能です。
No.24		水道ビジョンが全ページをいただいているのに対して、下水道ビジョンは現状のページのみでp22-49に記載されているであろう将来像を提示されておりません。それに対しての補足もありませんでしたので、どのように資料を読み、質問をさせていただいたらいいのか困惑しました。今後はその辺りをケアしていただくとともに、上下水道で足並みを揃えた審議会としてください。	十分な説明が出来ておらず、申し訳ございません。 このたび提出させていただいた資料は、上下水道ともに現状と課題に関するものです。今後の取り組みにつきましては、上下水道とも第3回審議会で提出させていただきます。
No.25		今回の資料とは関係ないのですが、現状で下水道事業の経営状況がよい(悪くない)理由としては、市域が狭いので管路が短くて済むなどの建設改良費が一般的な自治体と比べて少なくなっているため、という理解でよいですか。今後、管路更新等が始まると財政的に苦しくなってきたり料金を上げざるをえないような状況でしょうか。	経営状況が悪くない理由としては、既に芦屋市は下水道普及率100%を達成しているため、現在整備を進めている自治体と比べると新たな施設に要する費用は多くありません。ご指摘の通り今後は、人口減少に伴う使用料収入の減少に加えて、老朽化に伴う施設の更新が必要となるため財政的にも厳しくなる見込みです。



太陽光発電サイン

せせらぎ広場



太陽光発電サイン